



視点を变えれば、世の中は変わる。



Rethink=視点を变えて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を变えて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

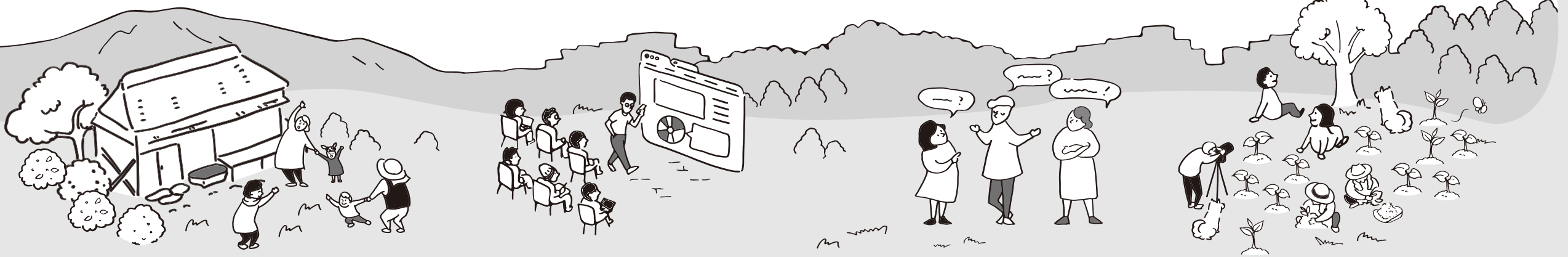
Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに行う地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っていきます。

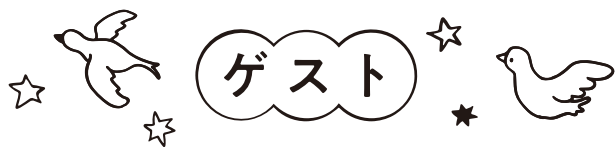


そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。

みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



「Rethinkフォーラム」(佐賀新聞社主催、佐賀県、佐賀県教育委員会など後援、Rethink PROJECT協賛)が、5月17日に佐賀市のガーデンテラス佐賀ホテル&リゾートで開催されました。第一部は、優木まおみさんがトークショーを行い、第二部では、優木さんに加え、坂井英隆佐賀市長、子育てNPO法人「ポコアポッコ」代表の寺野幸子さん、進行役のフリーアナウンサー増田さおりさんを交えて、「Rethink佐賀～子育てのミライを考えた地域づくり～」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



ゲスト



ゆき まおみ
優木まおみ氏 (タレント・モデル・身体美容家)

演題：私らしく輝く視点

1980年佐賀県佐賀市出身。バラエティー番組や情報番組、女性誌のモデルなど幅広く出演。2016年2月より佐賀市プロモーション大使を就任。最近では、ピラティスインストラクターの資格を取得しワークショップを開催するなど、活躍の場を広げている。



★ タイミングが合えば迷わず学びに飛び込もう

★ 父から受け継いだ学びへの探求心

—優木さんは佐賀市のご出身なので、「ようこそ」より「お帰りなさい」と言う方がしっくりきますね。

そうですね。仕事で佐賀へ来る時は、必ず実家「光楽園」の中華を食べています。子どもの頃は、週1回の定休日に、両親と一緒に食べる中華料理が楽しみでした。

—学ぶことに貪欲で常に新しいものを吸収されていますが、子どもの頃から学ぶことは好きだったんですか？

学びへの探求心がある父に似たのだと思います。私が小学生の時、父が放送大学を始めたり、家族でアマチュア無線の免許を取ったりしました。知らないことがあったら学びに飛び込んでみることを子どものころからやっていました。

—2002年に芸能界デビューされるまでの経緯は？

上京したくて東京の大学を選んだのですが、大学をさぼるようになってしまって。このままではいけないと、アルバイトしてお金をためて、ハワイの大学へ留学しました。帰国し

てからは大学も楽しめるようになったのですが、志望していたアナウンサーの採用試験は全滅。今の事務所に所属が決まってからも、なかなか仕事がなく、「今何してるの？」と聞かれたくなくて、地元の友達と疎遠になってしまった時期もありました。そんな下積み時代を経ての芸能界デビューでした。

★ 出産・育児をしながらの新たなチャレンジ

—現在は、タレント活動をしながら、身体美容家として活動されています。

出産・育児を経て、今までの量と質で仕事ができなくなりました。悩んだ時期もあったのですが、限られた時間の中で、次の人生でやりたいことを探そうと Rethink して、出産後に自分の体を変えてくれたピラティスの資格を取りました。体を動かすことは美容に直結していて、血液が循環することできれいになって、気持ちも前向きになります。「身体美容家」は、体を動かすことで美容の全体的な底上げをしたいという気持ちを込めて私がつくった言葉です。

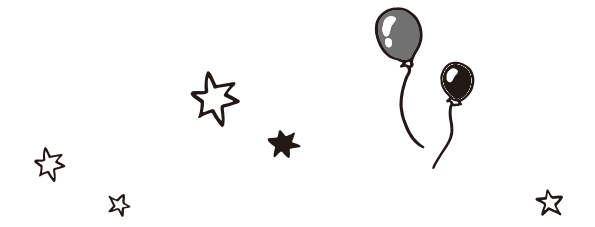
—いろんなことにチャレンジされている優木さんですが、共

通して意識していることはありますか？

無理をしない。そして決断を先延ばしにしないことでしょうか。タイミングが合うものを逃さないぞ、という気持ちで生きています。

—自分の中で考えがガラリと変わる Rethink する瞬間は？

私は体がすごく硬かったんですが、ピラティスにはまって1年で柔らかくなったんです。「私はこんな人」というネガティブな固定概念って1年もあればひっくり返せるんだと大発見でした。「私にはこの道しかない」じゃなくて、別の道もあるという Rethink の視点をいつも意識して持つようになっています。



テーマ「Rethink佐賀 ～子育てのミライを考えた地域づくり～」

パネルディスカッション出演者 優木 まおみ 氏、坂井 英隆 氏(佐賀市長)、寺野 幸子 氏(ポコアポッコ代表)、増田 さおり 氏(フリーアナウンサー)

忙しい子育て世代の負担を減らし寄り添うために

増田 小学1年生と2歳のお子さんがある坂井市長は子育てでまったく中。2人目が産まれた時に育児を取られましたが、どのように施策に活かされていますか？

坂井 市長に就任した直後で、迷いながら育児を取ったところ、男性職員の育児取得率が劇的(37%→62%)に改善しました。

優木 いや、一瞬もためらわないで取ってほしいです！休暇ではなく、ババになるための修行の時間だと思います。

坂井 育児をとるのが当たり前で、すみませんと言わずに済む社会にしていきたいです。子育て世代の手間を減らすため、「佐賀市公式スーパーアプリ」を導入して、ゴミ収集日の確認や、学校への出入連絡などを簡単にできる機能を実装しました。また、お守り型の見守り端末を小学生に無償で配っています。見守りスポットや人とすれ違うと児童の位置情報が保護者に届く画期的な仕組みで、年間152万回、1日1人の子どもの10～20人の大人が見守っている環境が作れました。

優木 とてもいいサービスですね。子育ては親がするだけじゃなく、地域でするものですね。

増田 子育てには不安や孤独もあります。

寺野 産後は心身ともにダメージが大きく、今まで経験したことのない無力感が高まる時期。そんなママが助けてと言える地域になるようにもっていかないといいなと思っています。

坂井 ポコアポッコさんは一人一人に寄り添う取り組みをされていますよね。私たち夫婦も参加しましたが、親同士が交流しながらそれぞれの子どもを預け合う「なまこまほいく」もとてもいい取り組みです。

寺野 他の子どものお世話をすることで、凝り固まった子育てのイメージが Rethink されるんですね。子どもって多様で自由な

んだって気づく機会になるんです。また、今日このフォーラムをされていらしゃる JT さんの助成金をいただくことができたので、その助成金を使って色々活動しました。

優木 核家族が多い東京では行政に頼るのは当たり前という感覚がありますが、昔ながらのつながりが強い佐賀では、移住してきた若い夫婦が中に入りにくくて孤立してしまうことが逆に多いのかもしれない。

坂井 そういう意味でも子育て世代の交流の場はとても大事だと思います。

子どもたちが心豊かに育っていく地域を目指して

増田 子どもたち自身に向けた観点からの佐賀市の取り組みは？

坂井 今の子どもたちは本当に多様なので、それぞれの苦手に寄り添うことが大事です。タブレットを活用して、苦手のサポートと、学びの支援に取り組んでいます。また、オンラインで海外の方と1対1で英会話ができる学習も導入しています。施設では、市立図書館を公園のように居心地のいい空間に生まれ変わらせ、皆が憩える空間や席を3倍に増やして、たくさんの方が来なくなるようなライブラリーパークを目指します。

優木 オンライン英会話はとてもいいですね。英語を勉強していても、何のためにという目的って見失いがちなんですが、リアルに外国の人とつながることで、その国の文化に興味を持ったり、その国に行くことになったり、そんな気持ち学が意欲につながると思います。

あと、佐賀の人はよく、「なんもなか」って言いますよね。でも今、東京で子育てしていて、子どもに経験させたいこと、例えばたき火や水遊び、田植え体験などができる環境が佐賀にはたくさんあるんです。なんもなかマインドを大人が変えれば、子どもたちも心豊かに育つ。自然豊かに暮らしやすい、その上教育システムが整って

くれば、どんどん子育てしやすい街になっていくんじゃないでしょうか。

増田 寺野さんは、市民図書館のリニューアル検討委員会に入られていますね。どんな図書館になったらいいと思われますか？

寺野 もっとこうなったらいいなという市民の Rethink ってたくさんあると思うんです。それを実現しようと思う時、公共施設の壁に必ずぶつかるんですが、失敗も受け止めてくれる場所になってほしい。どんどんチャレンジしようという自由な空気が満ちている場所になってほしいと思います。

増田 そして優木さん、お子さんの育ちの中で大切にされていることがあれば教えてください。

優木 今日の自分は子どもに見せたい生き方をしているか、子どもが「こうなりたい」という背中を見せているか、という目線で常に自分を振り返るようにしています。子どもたちに評価してもらえお母さんでありたいいつも思っています。

坂井 ベストマザー賞(2024)を受賞された理由が分かりました。

佐賀の良さを活かしながら便利とチャンスがある街へ

増田 東京はたくさんの子育ての情報やレジャー施設がある一方、佐賀には自然豊かな風土や、地方都市ならではの子育てのしやすさがあります。皆さんが思われる佐賀の良さってどんなところでしょう？

坂井 佐賀の人は東京と比べて平均で月3.4万円くらい安いコストで1.7倍の広い家に住んでいると言われてます。そんな地方の良さを活かしながら、一人一人の生き方や幸せを尊重し、応援するまちを目指していきたいです。子どもたちも、個性が大切にされていると感じることで、さらに自分たちが輝く未来を作っていくと思っています。



寺野 佐賀はほんとに暮らしやすい街ですね。でもそれだけでなく、たくさん選択肢があることを子どもたちに知らせながら、チャレンジしたい時にはみんなで応援できる街になることが理想です。

優木 佐賀はとにかく食がうまい！生きるとは食べる。体が元気になれば、気持ちも前向きになりますよね。私が一番根底で佐賀を好きなのはそこです。食がいいから、全体的に心豊かな街なんだと思います。